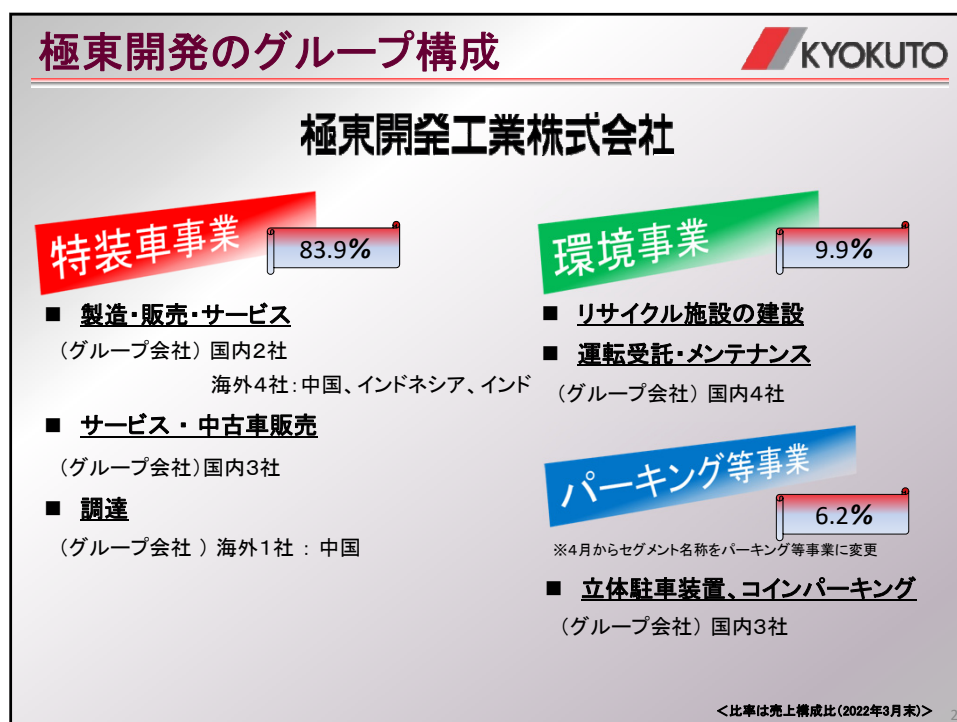
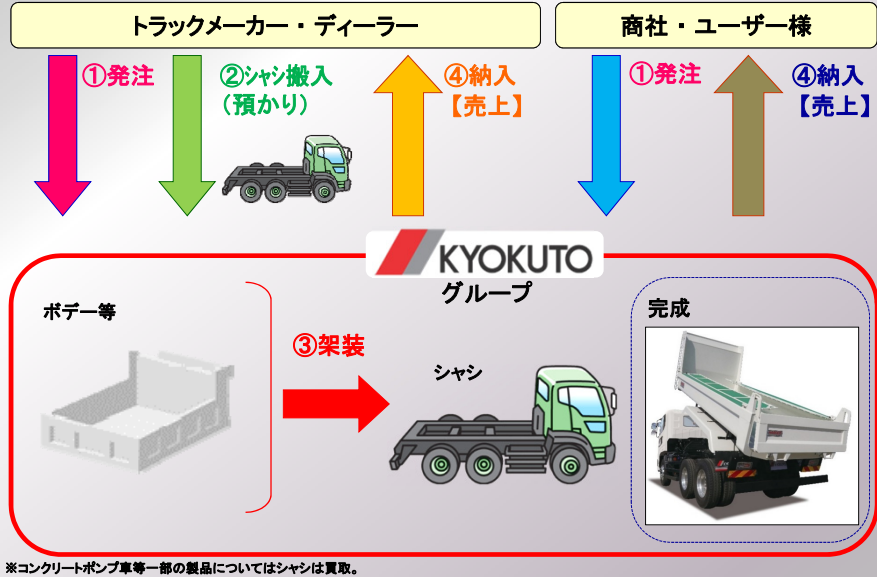




特装車事業

KYOKUTO



3

グループ主力製品

KYOKUTO

赤字:シェア1位製品
青字:シェア2位製品



コンクリートポンプ車



粉粒体運搬



トレーラ



1台積車輛運搬車



タンクローリー・散水車



テールゲートリフト



ダンプトラック



脱着ボデー車



ごみ収集車



ウイングボデー車

4

国内生産体制



三木工場(兵庫県三木市)



- コンクリートポンプ車
- ごみ収集車
- タンクローリ
- 機能部品の内製

名古屋工場(愛知県小牧市)



- ダンプトラック
- 粉粒体運搬車
- テールゲートリフト
- 散水車、タンクローリ

福岡工場(福岡県飯塚市)



- ダンプトラック
- パン

横浜工場(神奈川県大和市)



- ダンプトラック
- 脱着ボデー車
- 1台積車輛運搬車

本社事業所(愛知県豊川市)



- トレーラ
- パン

音羽事業所(愛知県豊川市)



- ウイングボデー

御津事業所(愛知県豊川市)



- スワップボデー

5

海外生産体制



インド工場 (グループ化：2020年9月)



- ダンプトラック
- トレーラ
- タンクローリ

インドネシア工場 (操業開始：2014年2月) PT KYOKUTO INDOMOBIL MANUFACTURING INDONESIA



- ダンプトラック
- ミキサートラック
- テールゲートリフト

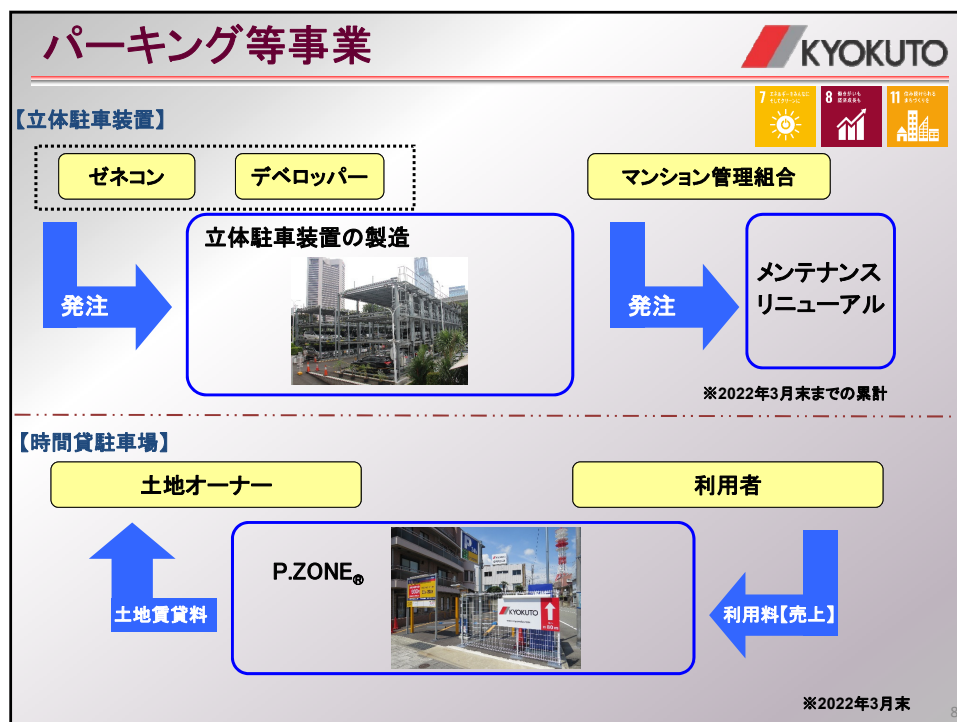
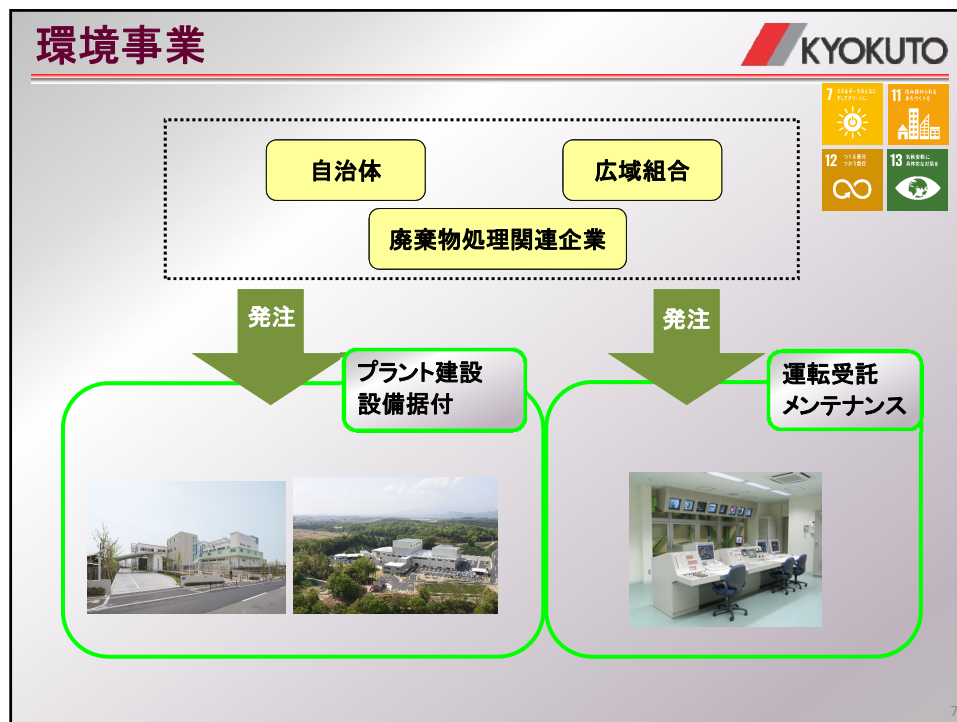
昆山工場 (操業開始：2005年4月)

极东开发(昆山)机械有限公司



- ミキサートラック

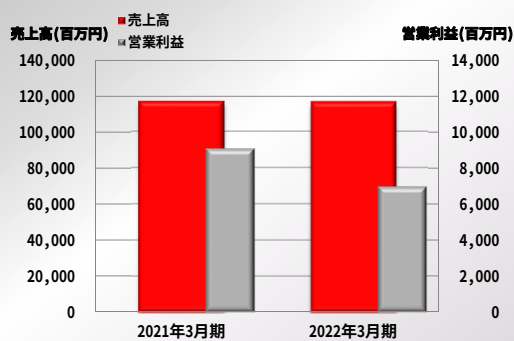
6



2022年3月期 連結決算実績



2022年3月期 連結決算



親会社株主に帰属する
当期純利益

固定資産の譲渡及び特別利益
(固定資産売却益)の計上により、
13,221百万円の特別利益の発生

	2021年3月期	2022年3月期	前年比	
売上高	117,170	116,910	△260	△0.2%
営業利益	9,080	6,974	△2,106	△23.2%
経常利益	9,253	7,567	△1,685	△18.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,774	14,274	+7,499	+110.7%

2022年3月期 特装車事業



売上高(百万円) ■ 売上高
■ 営業利益



売上高

✓ 半導体不足等による各方面の生産の停滞

✓ インドSATRAC社を中心に特装車の拡販を実施

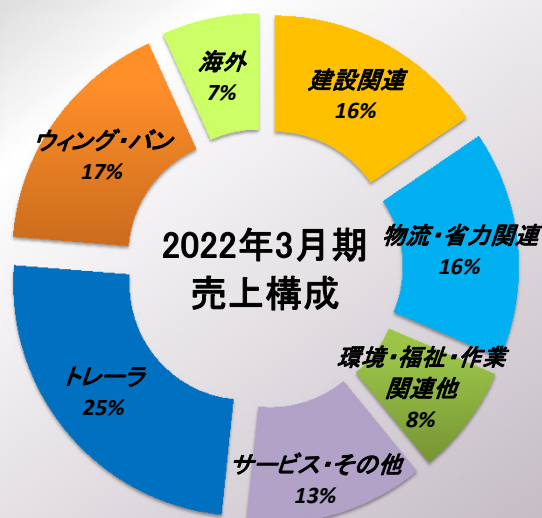
営業利益

✓ 鋼材等の値上げによる減益

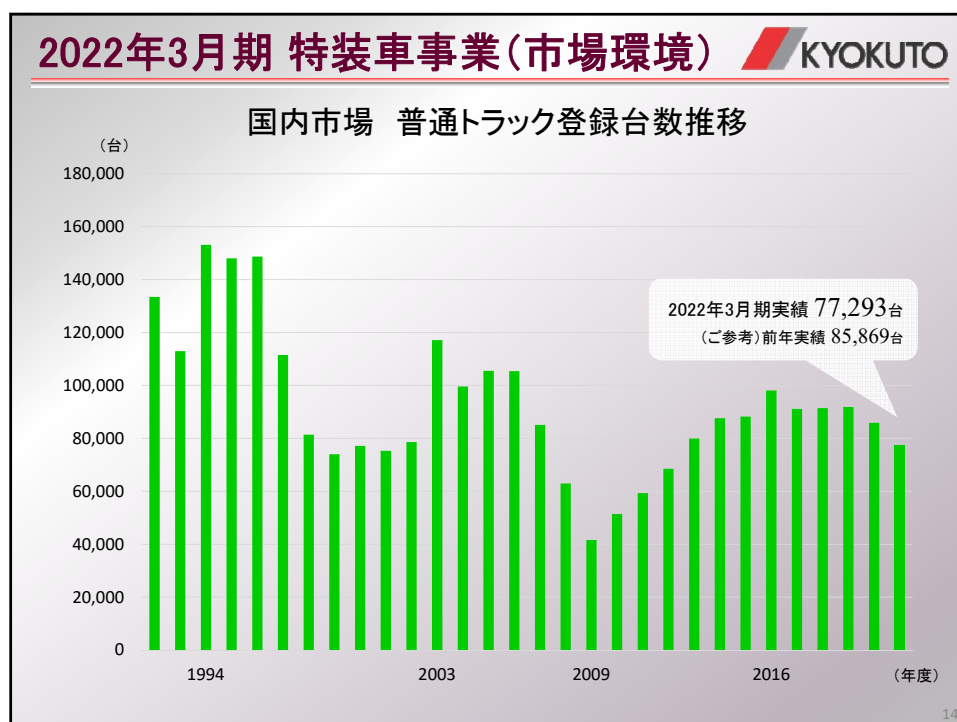
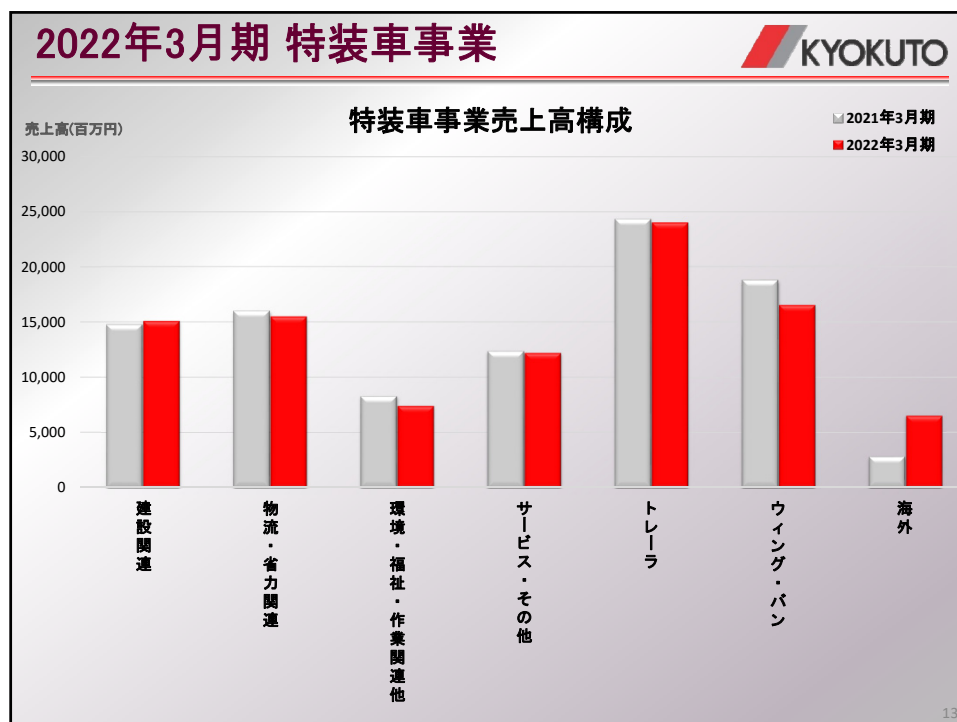
	2021年3月期	2022年3月期	前期比	
売上高	99,551	98,571	△979	△1.0%
営業利益	6,880	4,481	△2,399	△34.9%

11

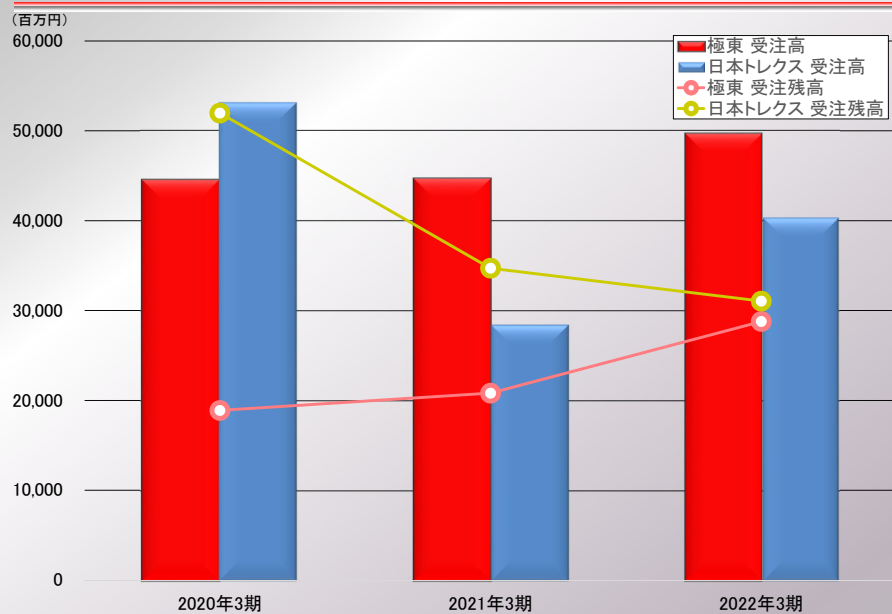
2022年3月期 特装車事業



12

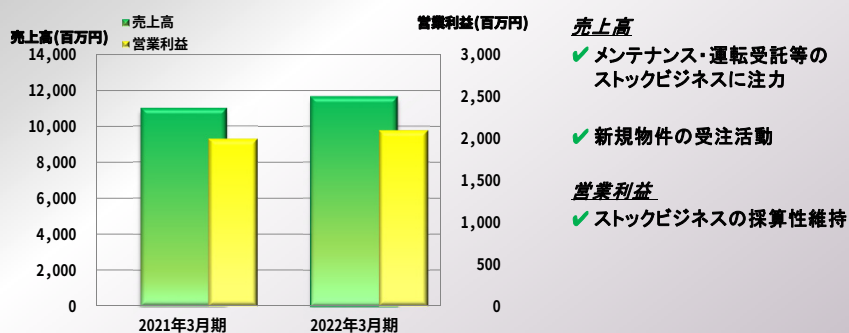


受注高と受注残高



15

2022年3月期 環境事業



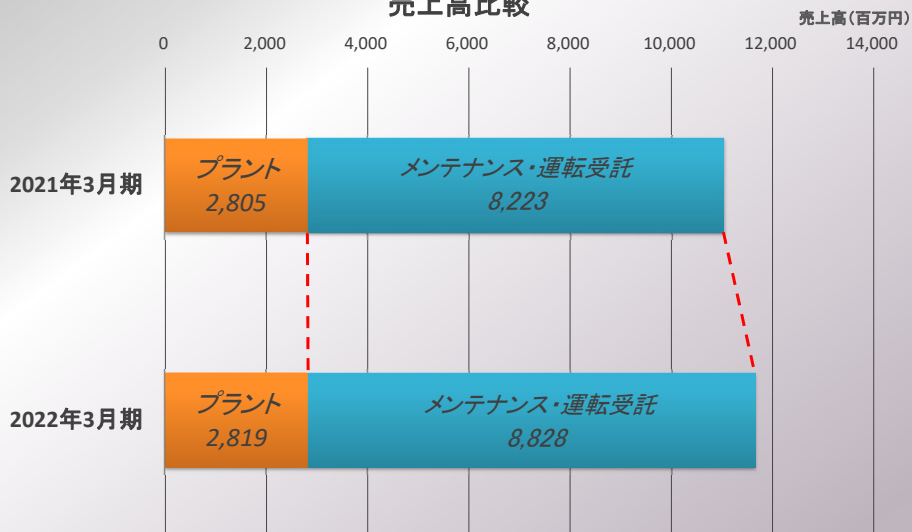
	2021年3月期	2022年3月期	前期比	
売上高	11,028	11,647	+618	+5.6%
営業利益	1,994	2,098	+103	+5.2%

16

2022年3月期 環境事業



売上高比較

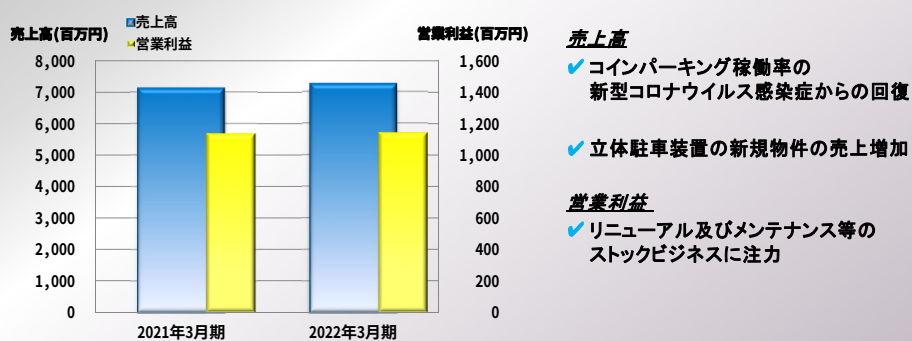


17

2022年3月期 不動産賃貸等事業



※4月からセグメント名称をパーキング等事業に変更



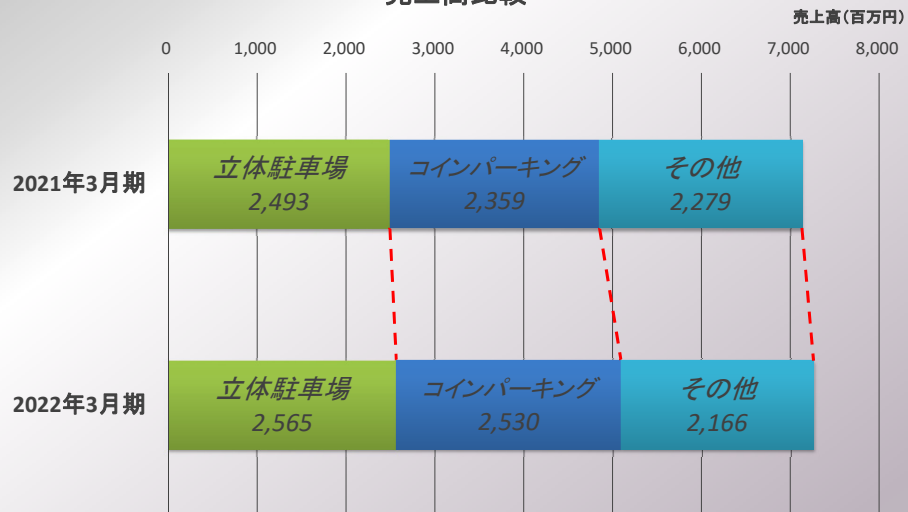
	2021年3月期	2022年3月期	前期比	
売上高	7,131	7,261	+130	+1.8%
営業利益	1,140	1,143	+3	+0.2%

18

2022年3月期 不動産賃貸等事業



売上高比較



19

極東開発グループ

中期経営計画 2022-24

Creating The Future As One



前 中期経営計画の振り返り

中期経営計画2019-21 ～ To the Growth Cycle ～



	2021年度 前中計目標	2021年度 実績	
連結売上高	1,100億円以上	1,169億円	達成(○増収)
連結営業利益	90億円以上	69億円	未達(×減益)

- ✓ 国内普通トラック市場が2020年度からCOVID-19の影響による経済停滞に伴い減少する中、その後の需要と特装比率*の上昇と生産性向上や海外売上拡大の貢献により、連結売上高は拡大・維持
- ✓ 原材料価格の高騰や、COVID-19の影響による設備投資の遅延もあり、2019年度及び2020年度は計画を達成したものの、最終年度の利益率は低下

基本方針	主要な達成・進捗項目	引き続き課題
生産性の向上と利益体質の強化	○ 横浜工場 中型リヤダンプ製造ラインの本格稼働 ○ サービス体制整備の推進（エフ・イ・オート設立など） ○ 「K-DaSSe」「KIESe」等の新システムの展開	☆ 効率性・生産性向上による利益体質強化の基盤確立 ☆ サービス体制の確立
将来の収益源の創出	○ 海外事業再編（タイ、インド【SATRACグループ化】等）による収益基盤構築 ○ 北陸重機工業の生産能力増強のための新工場竣工 ○ 林業向け製品の拡充と業界認知度の向上	☆ 収益基盤の発展 ☆ 新しい収益基盤の創出
企業品質の向上と社会的価値の深化	○ 特装車工場におけるISO9001認証取得とQMS運用 ○ ものづくりの向上・技術伝承を目的とした内製化の推進 ○ 働き方改革の推進（業務効率化、新勤務形態導入、女性活躍推進等）	☆ 社会的課題解決型製品の展開 ☆ 品質、安全、効率のさらなる向上に向けた基盤確立

※特装比率：普通トラック登録台数のうち、極東開発工業の主要製品である、リヤダンプ・タンクローリ（取水車含む）・粉粒体運搬車・脱着ボデー車・ミキサートラック・コンクリートポンプ・ごみ収集車の占める割合

21

長期経営ビジョン ～極東開発グループの長期的方針～

長期経営ビジョン

- Kyokuto Kaihatsu 2030 -

極東開発グループは、創業以来大切に培ってきた「技術力」「信用」そして「和協」の精神を礎に
サステナブル社会の実現・発展に貢献するグローバルな総合インフラメーカーを目指します。



当社グループを取り巻く、社会・環境の変化を「機会」と捉え
これまで培ってきた「技術」「実績・経験」「提供価値」を大きく進化させ
グローバルなサステナブル社会の実現・発展に大きく貢献します。

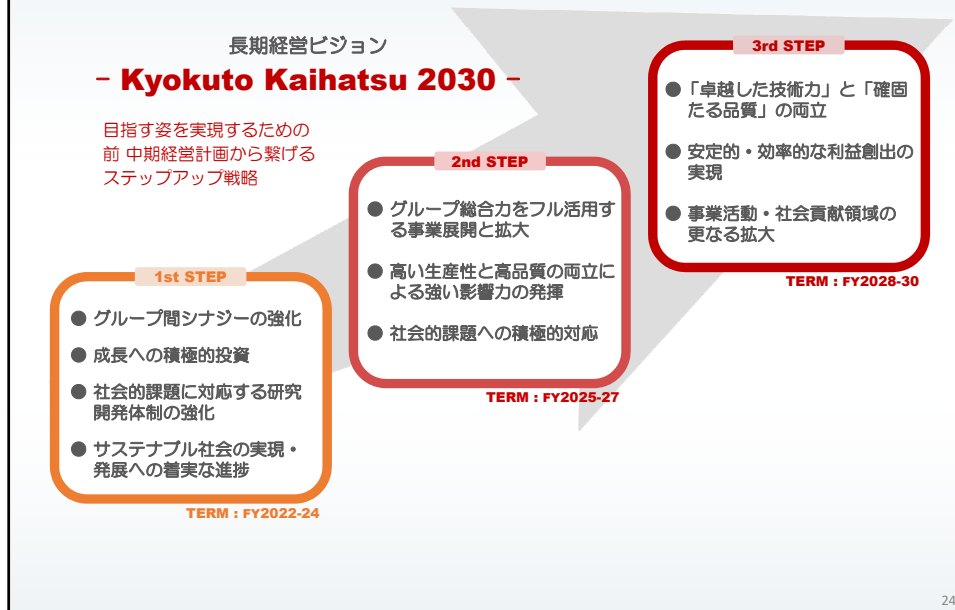
22

長期経営ビジョン ～極東開発グループが目指す姿～



23

長期経営ビジョン ～ステップアップ戦略と本中計の位置づけ～



24

中期経営計画2022-24 ～本中計の目的～

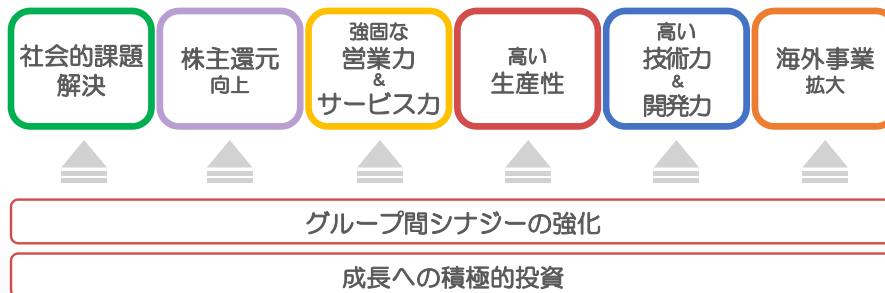
極東開発グループ

中期経営計画 2022-24

計画期間 2022年4月1日～2025年3月31日

Creating The Future As One

本中期経営計画においては、長期経営ビジョン「Kyokuto Kaihatsu 2030」に基づいた第1ステップとして持続的な「社会貢献」と「成長」へと繋げるための極東開発グループの総合的な基盤確立を目指します。



25

中期経営計画2022-24 ～本中計の基本方針～

「サステナブル社会の実現・発展への貢献」と「持続的な成長」による企業価値の継続的な向上を実現する極東開発グループを目指し、以下の4つを基本方針として取り組みます。

1 社会的課題解決への貢献と価値提供の追求

社会から真に求められる製品・サービスのタイムリーな提供によって、社会インフラの充実と高度化に貢献すると共に、SDGsをはじめとした世界共通の社会的課題に対して真摯に向き合い、その解決に取り組みます。

2 生産性向上と利益体質の強化

販売・サービス、開発・生産等、事業の全機能におけるグループ間シナジーの強化及び投資効果の最大化と積極的な海外事業展開を通じて、利益率の向上と新たな収益源の創出を実現します。

3 持続的成長と変革を支える強固な事業基盤の構築

働き方改革・業務改善・人材育成と安全確保を両立しながら、自ら変革と挑戦を促し、環境変化に柔軟に対応できる人づくり・組織づくりを行います。

4 企業価値向上を目指したキャッシュフローの最適分配

事業を通じて獲得したキャッシュフローは、成長と還元の最適なバランスを考慮し、成長サイクル加速のための戦略投資と配当等に活用します。

26

業績等の目標・方針（数値目標・方針）

長期経営ビジョンの実現に向けた、第1ステップとしての位置づけである
本中計では、グループ間シナジーの強化と成長への積極的投資によって強固な
基盤・基礎づくりに取り組むとともに、以下を具体的数値目標・方針とします。

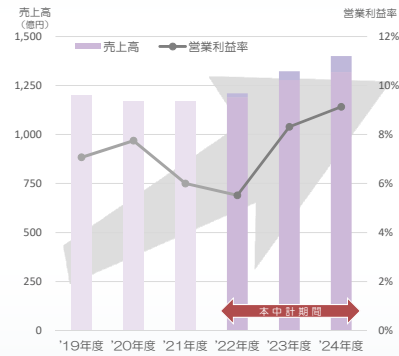
サステナビリティ目標

＜2024年度＞
CO₂排出量削減※1
△10% 以上
リサイクル率〔連立廃棄物ゼロ〕
99.0% 以上の維持

※1：極東開発工業、日本トレックス、極東開発パーキングにおける2020年度比の基準値

連結業績目標

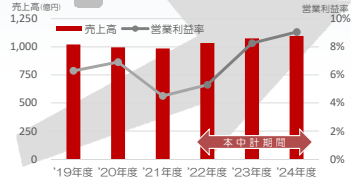
＜2024年度＞
売上高
1,400億円 以上
(新規M&A成長含む)
営業利益率
9% 以上



27

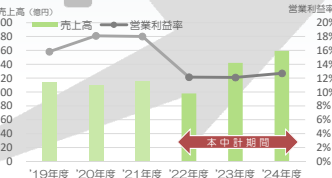
業績等の目標・方針（各事業における業績目標）

特装車事業

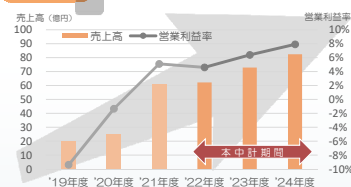


※ 特装車事業の業績を指します

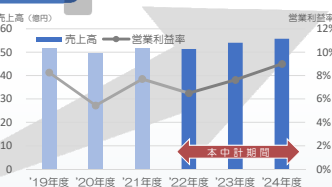
環境事業



海外事業



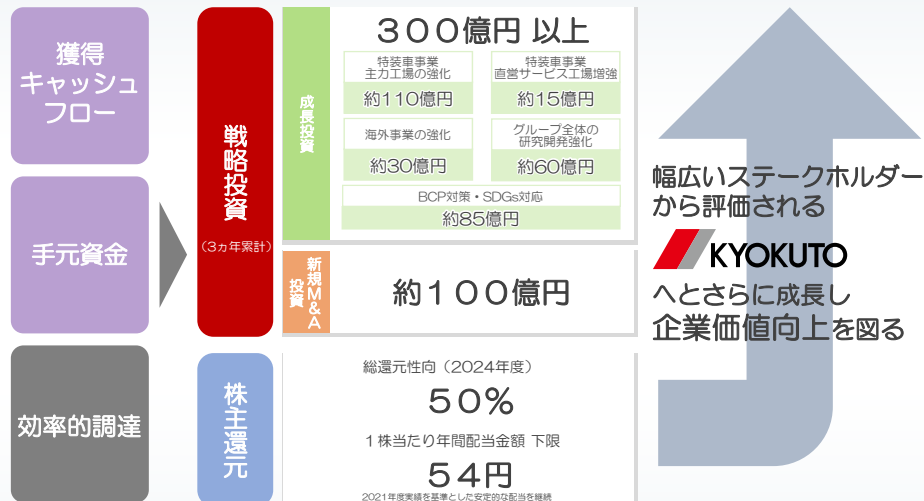
パーキング等事業



※ 極東開発パーキングの業績

28

業績等の目標・方針（財務方針）

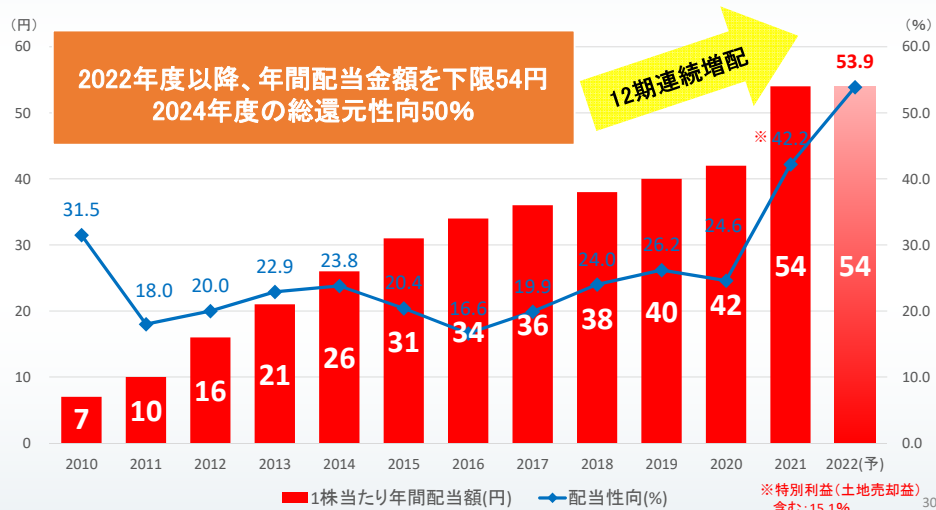


29

配当政策

配当に関する基本方針

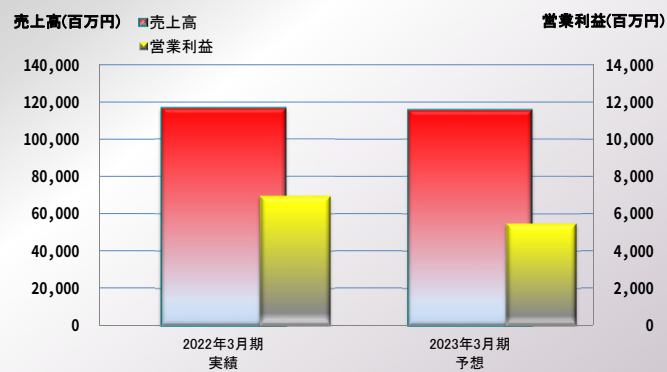
当社グループでは、株主還元を経営の最重要政策の一つと考え、業績の向上と財務体質の強化を図りながら、将来の事業展開、経済情勢等を勘案して、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めています。



2023年3月期 連結業績予想

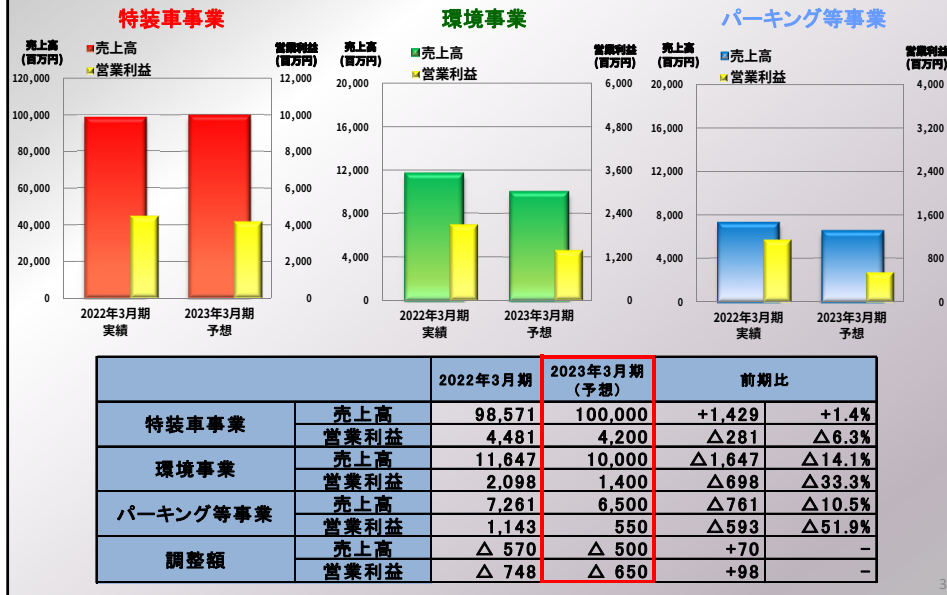


2023年3月期 連結業績予想



	2022年3月期	2023年3月期 (予想)	前期比	
売上高	116,910	116,000	△910	△0.8%
営業利益	6,974	5,500	△1,474	△21.1%
経常利益	7,567	6,000	△1,567	△20.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,274	4,000	△10,274	△72.0%

2023年3月期 セグメント別予想



33

TOPICS



TOPICS① コンクリートディストリビュータを清水建設様と共同開発



清水建設株式会社様と共同で、
コンクリートディストリビュータ(※)「PZ01-10」を
新規に開発し、2022年3月に発売しました。

ビル建設現場等の高所におけるコンクリート打設
通常：打設フロアの鉄筋上に配管を敷設の上、
コンクリートポンプ車と接続して打設場所まで
送りに上げる工法



コンクリートディストリビュータを活用することで、
高所でもコンクリートポンプ車と同様のブームワーク
による幅広い範囲へのコンクリート打設が可能



コンクリートディストリビュータ「PZ01-10」

(※) コンクリートディストリビュータ：コンクリートポンプ車搭載のブーム部を
工事現場内の支柱に定着し、コンクリートを打設する圧送技術

▶ 作業工数の大幅な削減による効率化と、鉄筋への
配管干渉が無くなることで工事品質の向上を実現

特
徴

1. 高い効率性と工事品質を確保
2. 設置作業のスムーズ化
3. 安全かつフレキシブルな対応力

35

TOPICS② 株式会社エフ・イ・オート 岐阜サービスセンター リニューアルオープン



株式会社エフ・イ・オートが運営する直営サービス
工場の「岐阜サービスセンター」を移転拡張し、
新たに「中部中古車センター」を併設して
リニューアルオープンいたしました。

現在、エフ・イ・オートでは、直営サービス工場を
全国7か所で運営し、特装車のメンテナンスおよび
修理等を行っております。



株式会社エフ・イ・オート 岐阜サービスセンター/中部中古車センター

▶ お客様の多様なニーズにお応えし、
事業の更なる拡大を図ります。



センター内 整備ブース



中古車展示場

概
要

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 名称 2. 所在地 3. 事業内容 4. 面積 5. 作業可能台数 | <p>株式会社エフ・イ・オート 岐阜サービスセンター/中部中古車センター
岐阜県安八郡安八町森部字南沼1637-1
特装車のメンテナンス(整備・点検)・修理・塗装・部品販売、中古特装車・トラック販売
敷地面積：5,300㎡ / 延床面積：1,124㎡
トレーラ：5台(塗装場1台・作業ベース4台)</p> |
|--|--|

36

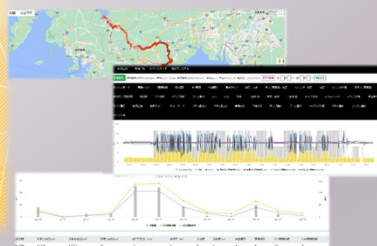
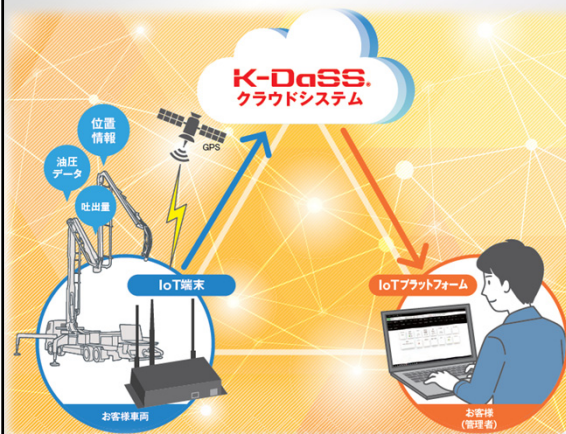
車両管理支援システム

K-DaSS^{IoT}
Kyokuto Data Sharing Service

NEW

1. コンクリートポンプ車へのIoT端末搭載
2. 建設現場での稼働データを見える化
3. 遠隔監視によるサービス対応の迅速化

▶ 建設現場の作業データと
車両データを活用することで、
効率化と安心・安全に
つながる



37

本資料の予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。
実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。
本資料の著作権は極東開発工業株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く
本資料を複製・配布することを禁止します。